

後記

本号は、三名の専任教員に加え、卒業生の久慈きみ代氏、大学院生の伊藤達氏から寄稿していただいた。また資料紹介も、いずれも大学院生、卒業生によるものである。多様な研究者の参加によって本誌がますます活性化することは、誠に喜ばしいことである。今年度より大学院単位互換協定が発効し、他大学との研究上の交流が制度化された。学生の研究環境がより一層整備されたことが、若い研究者の育成に大きく寄与することを、切に願う。

この四月より木村晟先生の後任として、土井光祐先生をお迎えした。新進気鋭の研究者として活躍中であるばかりでなく、教育面でも豊富な経験を重ねてこられた先生のお力を得られることは、変化しつつある国文学科の将来を支えていく上で、大変心強いことである。

国文学大会は例年、研究発表と公開講演会とで構成されるが、今年度は初の試みとして、文学座の寺田路恵さん脚本・出演による「にこりえ」が企画・上演された。東京では初の公演だそうである。日頃は舞台芸術に疎い学生も大勢詰めかけ、三味線の音色や張りのある声の美しさに聞き惚れた。いろいろな制約がある中、関係者のご尽力により感動的な舞台を楽しむことができたことに感謝したい。

(K)

編集委員

近衛典子

岡田 豊

中嶋真也